



立山砂防女性サロンの会（会長：尾畑納子氏）は、今年度の現地研修会として長野県内の砂防施設を視察しました。8月26日と27日の2日間にわたり、明治19年に着工（昭和29年に竣工）された上水内郡小川村の歴史的砂防施設「薬師沢石張水路工」（登録有形文化財）や、昭和60年7月に死者26人、けが人4人、家屋倒壊64軒という甚大な被害をもたらした長野市の「地附山（じづきやま）地すべり」の観測センターなどを視察し、長野県における砂防や土砂災害の歴史と防災工事の工法等について見聞を広めました。

開催日：令和5年8月26日(土)～27日(日)

場所：長野県内

- ・フォッサマグナミュージアム(新潟県)
- ・薬師沢石張水路工(登録有形文化財)
- ・地附山地すべり観測センター 他

参加者：立山砂防女性サロンの会

- ・吉友アドバイザー
- ・山崎副会長 他14名

立山砂防事務所

- ・石田事務所長
- ・村元調査課長

『砂防惣代(※)』から石張水路工の説明を受ける



薬師沢石張水路工(登録有形文化財)



薬師沢石張水路工で記念撮影

※『砂防惣代(さぼうそうだい)』とは？  
明治18年に部落の家屋や土地を地すべりから守るために設立された制度。内務省を始めとした役所との交渉、砂防工事の監督、フリ地(付近の5集落の耕作地)の調整、負担金や人夫提供の調整を行っていました。  
現在でも地域の家屋や土地の変状をまとめて県へ報告したり、水路工の管理や散策路の整備を行うなどして引き継がれています。



地附山地すべり観測センター



災害発生前後の比較写真

